ごあいさつ

「自立と協働が織りなす　元気あふれるまち三股」をめざして

三股町は、昭和46年に第１次総合計画を策定して以来、令和２年度を目標年次とする第５次総合計画まで、生活基盤の整備、産業振興、教育や健康福祉の充実などに努めるとともに、平成の市町村合併が進められる中、自主自立の道を選択し、町民と行政との協働によるまちづくりに取り組んでまいりました。

第５次の策定から10年を経過した現在、地球温暖化や資源エネルギーの大量消費などの地球的な規模での環境問題や、東日本大震災や新燃岳の噴火、日本各地で発生する集中豪雨などの自然災害による安全・安心への意識の高まり、グローバル化の進展に伴う国際競争の激化、高度情報化・科学技術の進展、新型コロナウイルスの世界的大流行など、社会情勢は刻々と変化しています。

加えて、我が国は本格的な人口減少社会に突入しており、昭和40年代から一貫して人口増加が続いてきた本町においても、今後、人口減少の局面に突入することが予測されるなど、町政を取り巻く環境も大きく変わろうとしています。

このような環境の変化や町民の皆様の要望を踏まえ、これまでの取組を継承しながら地域特性を生かしたまちづくりを推進するため、このたび、令和12年度までの10年間を見通し、新たなまちづくりの方向性を定めた「第６次三股町総合計画」を策定いたしました。

この計画は、まちづくりの基本理念を「自主・自立のまちづくり」「参画・協働のまちづくり」「快適環境のまちづくり」「安心・安全のまちづくり」と設定し、町の将来像を「自立と協働が織りなす　元気あふれるまち三股」と定め、その実現に向けて５つの基本方針からなる施策を体系的にとりまとめたものです。

計画策定にあたっては、総合計画審議会や町議会をはじめ、町民アンケートやパブリックコメントの実施などにより、多くの町民の皆様のご参加をいただきました。

今後は、この新しい総合計画で定めた将来像「自立と協働が織りなす　元気あふれるまち三股」の実現に向け、町民の皆様との協働により、全力で取り組んでまいりますので、一層のご理解とご協力をお願いします。

最後に、本計画の策定に当たり、貴重なご意見と積極的なご協力をいただきました町民の皆様並びに関係各位に対し、心からの感謝とお礼を申し上げます。

令和３年３月

三股町長　**木佐貫　辰生**

◆三股町町民憲章

わたくしたち三股町民は、先人の偉業に学び、郷土愛と開拓精神をもって、明るく豊かな町をつくるために、この憲章を守ります。

一、常に新しい希望をもって、郷土の開発につとめましょう。

一、教育を尊び、青少年を健やかに育てましょう。

一、環境を清潔にし、健康の増進につとめましょう。

一、生活をくふうし、よりよい風習をつくりましょう。

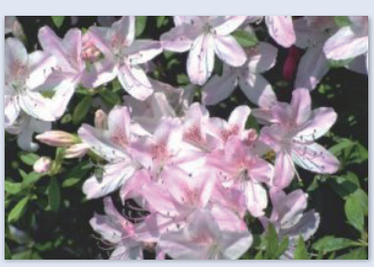
一、力をあわせ、ねばり強く、住み良い町を築きましょう。

（昭和三十九年一月四日制定）
（平成十一年四月一日改定）

昭和46年8月1日制定

町章は町の木「イチョウ」を図案化したもので、外形は丸く円満で輪、すなわちなごやかさを表すとともに無限を意味しています。なお、イチョウの葉は、扇形で、前途洋々たる希望と将来に向かって躍進する「文教のまち三股」を象徴しており、三股町の「三」をイチョウの葉で近代的にデザインしたものです。

◆町の花



サツキ

一年の中で五月といえば、とてもさわやかな気候の月です。また、植物や動物たちが冬の間に蓄えたエネルギーをもって活発に動き出す季節でもあります。

中でも、サツキは自然の躍動を象徴するように大きく強く咲き、集団的な美を誇る花でもあります。

心さわやかに永遠の発展を願って前進しようとする私たちの町の代表花といえましょう。

◆町の鳥

ホオジロ

ホオジロは翼長約７センチ、赤褐色で目の上の口から頬にかけて白斑があります。

変化のある美声で鳴き、昔から「一筆啓上仕り候」などと聞き慣らされており、声を楽しむ野鳥として、これほど私たちの心に残る鳥は少ないでしょう。

時代の移り変わりの中で昔の面影は薄くなりつつありますが、ホオジロには町のふるさとのイメージが残されています。幼き日の友であり、また遊び相手でもあったホオジロは、目立たぬ鳥ながらも何か忘れ得ぬ印象があります。

◆町の木

イチョウ

イチョウは、日本及び中国を原産とする落葉樹で、成長が早く寿命も長いことから、寺院や神社の境内、学校などには必ずといってよいほど植樹されています。

また、公園や街路の並木として風情を添えるほか、各種工作物の材料にも適しており、日常において親しみのある存在となっています。

イチョウの木にまつわる因縁、語り伝えの類も多くあり、躍進する三股町にふさわしい木といえましょう。